

平成 29 年度 努力事項研修計画

平成 29 年 4 月

広島市立竹屋小学校

研 究 部

1 教育活動全体構想

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かなたくましい竹屋っ子を育てる

校訓 『きょうも げんきで みんななかよく』

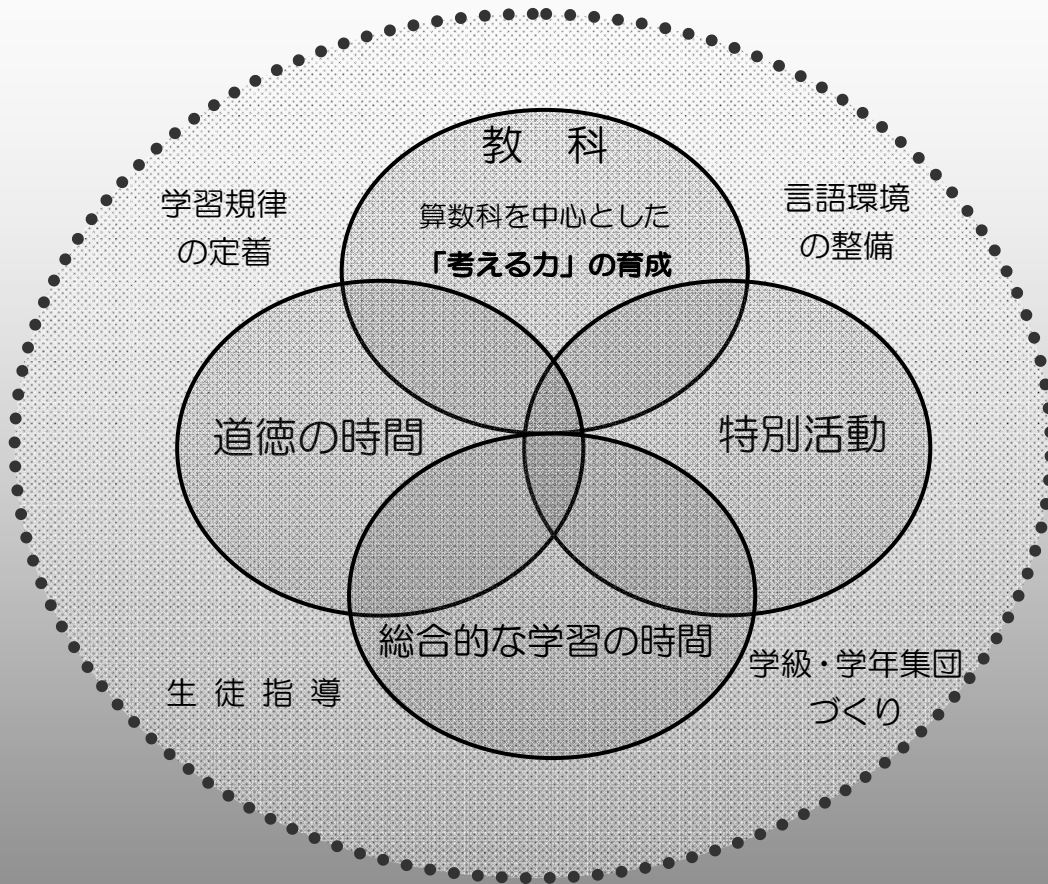
目指す子ども像

たくましい子 けじめのある子 やさしい子



研究主題

主体的に学び、ともに伸びようとする子どもを育てる
～ 「学び合い」を通して、数学的に考える資質・能力の育成 ～



社会

人

自然

ふるさと竹屋

竹屋小の教育活動

2 研究主題

研究主題

主体的に学び、ともに伸びようとする子どもを育てる
～ 「学び合い」を通して、数学的に考える資質・能力の育成 ～

3 研究主題設定の理由

●昨年度をふり返って

平成 26 年度から算数科の授業を通して、主体的に物事に取り組む竹屋の子どもたちを育てることに取り組んできた。研究の成果として、

○落ち着いた雰囲気の中で、意欲的・主体的に粘り強く学習に取り組む児童の姿が見られた。

○児童は、自分の思いや考えを工夫して表現するようになってきた。また、友達の考えを尊重しながら話を聞くようになる気持ちが養われ、相手の言葉をしっかりと聞き取る力も付きつつある。

○友達や先生、学習材との対話を通して、自分の考えを確立させたり深めたりする「学びあう力」が付いてきた。

○研究の進め方が定着してきて、職員間に学びあうよい雰囲気ができている。

などがあげられる。

これらの成果をふまえ、昨年度までの研究の方法、内容、進め方を継続し、研究内容の質を高めていく。

●本校の子どもたち

竹屋小学校の児童は、素直で物事を肯定的に受け止めたり考えたりできる。学習の様子からも「積極的に友達とかかわろうとする」「聞き合う関係が育ち、グループ学習だけでなくクラス全体で学びあうこともできるようになった」姿を見取ることができる。算数科の学習に対しても、「好きだ」「楽しい」と回答する児童が多い。友達と意見の交流をすることを楽しいと感じ、自分の力を伸ばしたいと考えている。

28年度の全国学力・学習状況調査、基礎基本定着状況調査などの結果を見てみると、全国平均・県平均との差はほとんどなくなってきた。項目によっては平均通過率を上回るものが見られるようになった。点数は一つの目安でしかないが、取り組みの成果が現れていると考える。しかし、児童の家庭環境に目を向けてみると、様々な理由から学習への支援をできない家庭も多い。外国にルーツをもつ児童も多く在籍しており、言葉の問題や家庭の支援を頼めない現実もある。学力だけでなく家庭環境における個人差が大きいのが竹屋小学校の児童の実態である。

●算数科のよさを生かしながら

●次期学習指導要領改定をうけて

4 研究仮説

自分の考えをもち、意欲的に授業に向かうことを繰り返す中で、主体的に学び、互いに認め合い友達と共に伸びようとする児童が育つだろうと考える。

具体的には、算数科の授業において、

- 全員が進んで問題に取り組もうとし、自分の考えをもつことができる。
- 自分の考えを、友達に伝えることができる。
- 友達との意見の交流を通して、新しい考えに気づいたり、考えを深めたりできる。

5 年次計画

- (1年次) 学び合いの楽しさやよさに気づき、考えを聴き合い学びを深めることができる
- (2年次) 学び合いの楽しさやよさを感じ、考えを出し合い学びを深めることができる
- (3年次) 学び合いの楽しさやよさを実感し、考え出し合い主体的に学びを深めることができる

6 研究内容

めざす子ども像

- 学び合いの楽しさやよさに気付く子ども
- 考えを聴き合うことができる子ども
- 友達と意見交流しながら、問題解決に取り組む子ども

めざす授業像

- 問題解決型の学習過程の授業
- 子どもたちが主体的に取り組む、子どもの思考の流れに沿った授業
- ペアやグループ、学級全体で聴き合いの場面がある授業
(ペアトーク、ホワイトボードを活用した意見交流、集団思考 など)
- 学習内容や自分の学びの振り返りがある授業
- 友達の考えや意見を認め合い、ともに高まる合う授業

◇「学び合い」とは？◇ (それぞれがもっている「学び合い」のイメージを共有する)

他者とのかかわりによって、自分や集団の考えを発展させること？

課題に対して・・・どう考える、どこがわからない、どんなことを知りたい

全員に学びが生まれる時間に・・・より深く・より豊かに・新たな発見を

(学力の高低に関係なく)

◇どんな対話をさせたいか？◇

対話をするための土台作り

- ☆他者の言葉に耳を傾けようとする姿勢
- ☆言葉を聞き取る力の育成

- 意見（質問）を返す 「これってどういうこと？」「この2って何？」
「ここがよくわからない。もう一度教えて。」
「なるほどね～」「あ～そうか」
 - 関連することが言える 「この前の〇〇と似ているね。（同じだね）」
 - 考えを広げる・つなげる 「〇〇さんの意見を聞いて思ったんだけど・・・。」
『誰かつないでくれる？』
『〇〇くんの説明に何を付け加えたらいい？』
『〇〇くんはどう考えているのかな？』
『今の考えは誰のと似ている？』
 - 考えをまとめる 「つまり、こういうこと？」
「一番大切なことはこれだな。」
『〇〇さんの発言のキーワードは何かな？』
『誰か〇〇さんの意見をまとめてくれる？』
- ※『 』・・・教師, 「 」・・・児童

(1) 算数科の授業づくり

《問題解決型学習課程の展開》

授業の前に・・・

- ・児童の実態把握

既習内容の定着状況がわかるテスト等を行う。

- ・単元のつながりを確認する

前学年での学習内容と次にどんな学習単元・内容につながるのか？

課題把握

課題をつかむ

自力解決・自力思考

自分で考える・ペアで考える・少人数のグループで考える

○一人一人が主体的に課題を解決する。

そのために・・・一人一人が考える時間を保障する。

児童が自分なりに解いてみようとする気にさせる。

考えを表現させるための手段を与える。（図・表・式・言葉）

集団解決・集団思考

みんなで考える

そのために・・・自分の考えを説明できるようにする。

発表の言葉やつなぎ言葉を活用して表現できるようにする。

友達の意見に反応できるようにする。（聞くことで授業に参加）

○意見の交流によって、新しい価値を作り上げる授業

まとめ

学習をふり返る

そのために・・・互いの考えの良さに気付き、認めることができるようにする。

数学的な合理性を大切にして思考させる。（分かりやすい・簡単・いつでも・はやく）

《算数科の授業づくりをするときに・・・》

- 学力差があることを前提にした授業の工夫
- 子どもたち同士の学び合いの土台になる人間関係作り
- 授業の中で ICT 機器の積極的な活用
- (2) 基礎・基本の定着を図る指導

・スキルタイムや授業時間を利用して基礎・基本的な学習内容の定着を図る。

	時間帯	月	火	水	木	金
1～4 年	朝(8:25～8:35)	朝読書		朝読書	音読	朝読書
	昼(13:45～14:00)	算数	国語	算数		算数
5・6 年	朝(8:25～8:35)	算数		朝読書	算数	朝読書
	昼(13:45～14:00)	英語	英語	英語		算数

7 研究方法

(1) 研究ブロック

○研究母体は、低学年・特別支援、中学年・専科・生徒指導・養護、高学年の3ブロックとする。

(2) 授業提案・協議会

- 1人1授業 → 研究テーマに沿って指導案を立て、公開授業・協議会を行う。（観察授業を兼ねる）
指導案は、全職員に配布する。ブロック研究授業の指導案は略案でよいことにする。
必要に応じて「単元について」などを入れてもよい。

○各ブロックは、研究計画を元に、児童の実態の把握をした上で、単元・教材の吟味、教材研究、事前（模擬）授業などを行い、全体研修会に指導案・資料などを提出する。

○授業前に学習指導案についての説明を行い、授業者の意図や該当学級児童について周知する場にする。

○授業観察では、児童の学習活動の様子を観察する。児童の様子をもとに提案授業についての協議会を行う。

○協議会后に協議会記録を A4 版 1～2 枚程度にまとめ、研究部（紀要担当）に提出する。（おおむね一週間以内を目安に）

○専科、生徒指導の公開授業は中学年のブロック研として行う。

→専科、生徒指導担当教諭については研究テーマに即して指導担当教科の公開授業を行う。

○特別支援学級（のびのび、たけのこ）については、できるだけ早い時期に公開授業を行い、全職員が児童の実態を知る場にする。

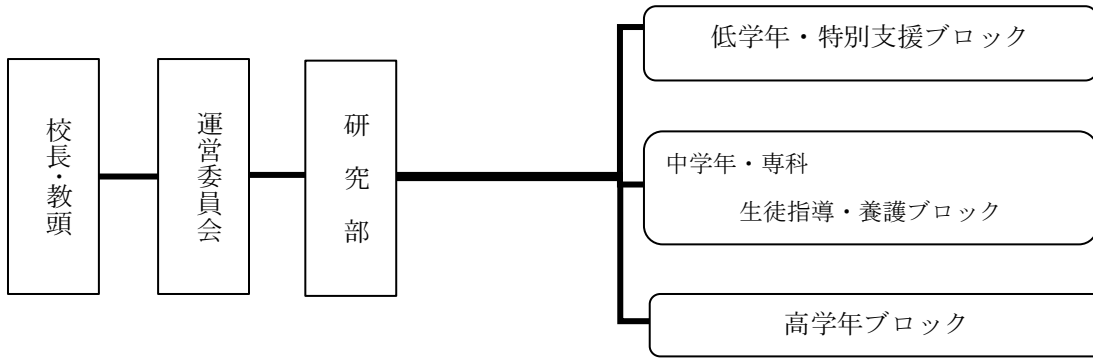
○全体研修会は、各ブロック（低・中・高）1提案行う。今年度は、国泰寺中学校区の公開授業があるので各ブロックより1提案行う。（12月12日公開）

(3) 研究の振り返り

○年度末には、研究の振り返り（学年の取組）を行い、成果と課題を確認し次年度の計画の見直しをする。

(4) 大学教授や指導主事による講話

8 研究組織



9 検証方法

- 児童の様子（発言，ノート・ワークシートの記述など）を観察
- 児童アンケート
- プレテストと単元学習後のテスト
- 学力テストの活用（2～4年 CRT テスト，5年 基礎・基本定着状況調査，6年 全国学力・学習状況調査の結果を分析し指導に生かす）